市政懇談会「留萌百年物語」開催報告書

目　的

◆　明治４３年、留萌の港づくりが始まり、留萌駅ができて、留萌のまちづくりが大きく動き始めてから今年で１００年の節目を迎えます。

　もう一度、先人たちの足跡に想いを馳せ、これからの５０年後、１００年後を考え、市民の皆さんと一緒に未来を担う子どもたちに引き継ぐまちづくりを進めていかなければなりません。

　今回は「留萌百年物語」として、新･留萌市財政健全化計画及び留萌市立病院改革プランの初年度を終え、その結果や取り組み状況、今後の見通し、特定健診やがん検診受診の必要性やこれからの道路整備など今後の重点的事項について、さらに、それぞれの地域で抱えている課題などについて市民の皆さん方と意見交換をし、一層の情報共有を図るため開催しました。

開催状況

開　催　日	時　　間	会　　場	参加人数
6 月 10 日 (木)	午後７時　～ 午後８時３０分	総合福祉センター	１５名
6 月 11 日 (金)	午後６時３０分 ～　午後８時	港南コミュニティセンター	６名
6 月 16 日 (水)		東部コミュニティセンター	１８名
6 月 17 日 (木)		幌糠コミュニティセンター	１１名
6 月 18 日 (金)		港北コミュニティセンター	１９名
6 月 19 日 (土)	午前１０時　～ 午前１１時３０分	港西コミュニティセンター	１０名
	午後１時３０分 ～　午後３時	港東コミュニティセンター	２１名
合　　計		７会場	１００名

市政懇談会「留萌百年物語」開催結果報告

【市長挨拶（要旨）】

- 私も市長という重責をいただいて５年目を迎え、最初の４年間は財政再建ということで、今までの留萌の市の状況、市民と行政との関係、色々な問題点があったことも事実でありますから、市民と協働していくためには色々な問題を解決していき、お互いの信頼関係、私どもは市民から信頼され期待される市役所でなければならないということで、今日まで努めてきました。
- この４月から留萌百年物語、もう一度、留萌の百年の歴史を振り返ろうということで、市役所にも大きく掲げました。
- 明治４３年に港づくりを始めて、留萌駅ができて、留萌電灯株式会社もできて、また、文化の面でも大和遠州流の、後の家元を受け継いだ蓼沼ナオさんが留萌に来てお茶を広め、留萌の文化の礎となり、この百年の歴史はものすごいエネルギーがあった時代。
- 百年前に、留萌の五十年、百年後を見据えて、色々な事業に果敢に挑戦して行った年なのかと考えると、私どもの先人が築いてきたこのまちを、私たちがどのような形で次の世代に繋いでいくのかが重要である。
- 東京や札幌、旭川で留萌の会が開催されているが、出身の人はこの地域のことを気にかけ、ふるさと納税ということで留萌出身の方々からも色々ご協力をいただき、留萌の地域について色々心配していただいている。
- 私たちも、これから五十年後、百年後の留萌をしっかり意識しなければならない。
- もう一点、この百年物語の中で北海道の組織も大きく変わり、留萌支庁が振興局になった。
- 支庁は字のとおり、この地域を支える役所であったが、振興局はこの地域を盛んにする、地域の活性化をするという組織に生まれ変わりますということなので、私たちも、今までは道や国に支えてもらってこのまちの経済が成り立っていたが、これからはもっともっと発展するということを考えていかなければならない。
- 今は何より財政再建が大事だが、特に行政というのは医療、介護、福祉、これをしっかりやらなければならない。もう一つは環境問題も行政の大きな仕事だと考えている。
- 皆さん方の協力、ご支援、そして色々ご負担をいただきながら、何とか留萌のまちの、地域の再生を図っているところであります。
- そのためには地域の活性化、成長戦略をしっかりやっていかなければならないので、商工会議所、農協、漁協、留萌信金、観光協会、地域づくり連絡協議会の団体と市とで、毎月 1 回、農商工連携して会議をしながら、経済界と私たちで共通認識、情報を共有する中で、まちづくりについて同じ方向性を確認しながら取り組んでいる。
- 財政が厳しいので、なかなか新しい事業、大きな投資はできないが、行政としての経済をまわす、また、雇用を創出する責任が行政にはある。
- しっかり経済界と話をしながら、一つは農業、漁業、水産加工業の振興、もう一つは留萌の駅前から続く長い商店街、それぞれの商店街の魅力を出した振興策、そして企業誘致はなかなか難しく、フェリーの就航についても日本の経済の大きな流れの中でなかなか上手くいかないということで、今ある地場の企業、お店の支援策をして振興をしながら、少しでも雇用を図っていくという政策転換というのもしっかりしなければならない。

・　昨年７月に健康の駅をオープンした。ご承知のとおり井原水産では、もうコラーゲンというのを開発し、実際に販売をしていますし、数の子そしてニシンによって、何か新たな健康食品としての取り組みができないだろうか、また、健康食品の研究機関と合同して地元食材の中から新たな発見ができないだろうか、そういう取り組みの一歩をようやく進めたところである。
・　一次産業の振興、商店街の振興、そして地場の企業、ものづくりの振興、この３つを組み立て合って始めて観光振興に繋がっていく。
・　観光は総合的な産業なので、観光産業、観光振興を組み立てていくには、それぞれの地域の持てる力を出し合い、連結し、全体の観光産業に繋げていくということを意識しないとならない。
・　留萌の将来に向けて、高規格道路が留萌まで入ってくる。その中で道路網はどういったことが理想なのかということも都市計画の中で計画してきた。
・　２００３年からのマスタープランの計画で、それを受け継ぎながら、少しずつ見直していきながら市民の皆さん方の理解をいただくことが何よりですから、市民の皆さん方に理解をしていただかない中で、今は強引にやるということはありません。
・　今はそれぞれの地域で特色のある地域づくりをしてくださいという、地方分権から地域主権、それぞれのまちが自治体経営をしっかりやってくださいということで、この地域で自治体経営をするためには市民の皆さん方の協力、そして一緒になってこの地域の経済や商店街、まちづくりをそれぞれ協働してやっていかなければならない。
・　国や道も交付金などで、地元から発信したアイディアで事業を組み立てていいという仕組みがあるので、それをしっかり組み立てて、このまちのビジョンを、商店街やこの地域の産業の将来のビジョンのデザインをしっかり描いて、計画を進めていかなければならない。
・　具体的な取組みの中で、北海道食品加工研究所と協定を結び、函館みらい大学と漁業の関係で協定を結んでいる。大学や研究機関と協力しながら、もう一度一つ一つものづくりから、この地域の経済の活性化を目指していく。
・　今、特に若い世代が頑張って、一生懸命留萌の経済を動かす原動力となり、新たな商品づくり、人づくり、そして新たな取り組みの一つ、二つ生まれてきているので、そういう芽を行政として、そして市民みんなで力を合わせて守っていかなければならない。
・　留萌の百年の歴史をもう一度皆さんと共有しながら、いまの留萌市における財政状況を知っていただきながら、それぞれの役割を果たし、協力をしてもらう、その協働の中から次の世代に留萌の姿をはっきり示しながら、子どもたちがこの留萌に生まれてよかった、お年寄りが安心して住める、そういうまちづくりを進めていきたい。
・　市民の皆さん方には、それぞれの地域の中で協働という形で、地域の中で防犯事業や防災事業、そして色々な福祉活動の中においても協力いただきながら、また行政の一翼を皆さん方に担っていただきながら、これからもしっかりとした行政責任を、私どもは果していきたい。
・　これからも皆さん方の一つ一つのご意見が何よりも大切だと思っており、私どももコミュニティ行政というものをしっかり考えながら、行政の責任を果してまいりたい。

（幌糠地区）

・　国の方は農業の戸別補償ということで大きく変わろうとしているし、また過疎地域に対する支援策も色々出ています。
・　一次産業で農業に携わる人が何か商品開発をする、そしてそれを売るという６次産業という新たな言葉も出ているが、この地域の農業から生まれるものの付加価値を高めていく、そういう事

業についても国の支援が色んな形で出てきている。

・　物を作って、それを何とか販売ルートに乗せるような支援策を私どもはしっかりやっていかなければならない。

　今年はルピナスで、地元の農家の皆さん方が作った野菜を直接農家の顔が見える野菜として販売するということで、一部改装するようなので、皆さん方が生産しているものを、より付加価値を付け、何とか販売ルートに乗せるよう仕組みを考えていかなければならない。

【報告事項、意見交換】

・　各部より別添市政懇談会資料により説明、意見交換を実施

・　意見交換の概要については別紙のとおり

【閉会にあたって（市長発言要旨）】

・　土曜日、日曜日の設定は難しいかなという気もしており、日程的にも数を増やしてやるということも難しく、今回もコミセン単位、そして中央では福祉センターということで開催した。

・　信頼されること、期待されること、そして本当に頼りになる市役所として、今、市の職員も、職員給与が日本で一番安いのではと議会で言われるような状況下であるが、市民のためにみんなで頑張っていこうという想いである。

・　留萌の経済がどうなるのか、港がどうなるのか、財政に余裕があれば麦のサイロの問題等色々やらなければならないと思ってはいるが、今のところは先ず財政再建をしっかりつけて、市民の皆さん方に迷惑をかけた分を１年でも早く回復しなければならないという、そういう努力をしていきたい。

・　道路の問題は住んでいる人の財産権なので、そこに道路を作るから立ち退けということは今の時代はできない。

　しっかり理解していただいて、こういう道路ができたらどう変わるかということを進めていかないとならない。

・　昔は国や道、市役所が決めたからとやっていたが、しかし国も変わってきた。それが地域主権ということであり、私たちで考えて、私たちで努力をして、そしてこの地域でものづくりをして、まちづくりをしていくことが必要。

・　もう一度、過去の人の想い、その大切さをお互い感じ合いながら、昔やっていたことを歴史から学んで、そして次の歴史を作っていかなければならないと思っている。

・　今の市の総合計画は、懐かしき未来、昭和３０年時代にみんながほっとした気持ちで心が間違いなく繋がっていた、やさしい地域社会というものを私どもはもっともっと目指していくべきではないかと思う。

・　お年寄りに優しいまちづくり、お年寄りに優しい商店街づくりとして、責任ある支援を私どもはしていくべきだと思っている。

・　ラルズプラザの後の利用も公共施設として借り、今、お年寄りや障害、ハンディを持った人方、そしてお店をやりたい人方にそこで頑張っていただいて、そこから商店街の中で開業できればいいなという強い想いでいる。

・　やはり健康が一番、いま旭川医大と市立病院、羽幌病院で遠隔医療の協力をしようと進めており、また、旭川医大と市民の健康状態についても色々な連携を図ってやろうという新たな取

り組みも考えているので、そういう部分について地域住民の皆さん方の協力があって、そして地域住民の皆さん方の健康を主体的に考えて行きたい。

- 市の職員も市民の皆さん方と共に頑張って、何とか市立病院を盛り立て、皆さん方の健康を、そして「いきいき　ふんわり　思いやり」という、最後まで「ぴんぴん　きらり」と光るまちづくりというのを皆さん方と進めていきたい。
- この４月から月に１回、８の付く日に市民対話ということで進めているので、私は市民の皆さん方を市役所でお待ちして、直接意見交換をしたいと思っているので、どうかいつでも訪ねていただきたい。

【幌糠】

- 地デジは国が大きく政策転換するということなので、一部市民負担が出てきているが、地域によって負担する額がものすごく格差が出てきていて、町村会や市長会でも国の方に対策を要望している。
- 私としてはこの地域にある、例えば今、空いている学校を利用して地元の皆さん方と協力した中で新たな取り組みができないか、カヌーを実際作った方がダム湖でカヌーをできないのかとか、色々な取り組みをしようとしているので、農村で農業体験をしながら、またダム湖でカヌーの体験をしたり、学校施設を利用して交流事業をするとか、今ある色々な施設を利活用しながら少しでも多くの交流人口を引き込むような施策を、私としては考えていきたい。
- 農業、漁業の一次産業が元気になってほしい、そしてそれが商店街を元気にする元だと思っているので、元気になるために少しでも多くの人がこの地域で農業体験を通じて交流を深めることができればいいかなと思っている。